

2 月度学術講演会

日 時	2月17日（土）午後2時
演 題	プライマリケアにおける上腹部症状を有する患者の診断と治療 ～胃食道逆流症（GERD）を中心に～
講 師	市立柏原病院 消化器内科 部長 奥山正嗣 先生
出席者数	11名
共 催	大塚製薬株式会社
情報提供	多発性嚢胞腎に対する治療薬トルバプタンについて
担 当	富永良子

日常診療で心窩部痛や胸やけなどの上腹部症状を有する患者に遭遇することは消化器内科医でなくてもまれではない。食生活の欧米化やヘリコバクターピロリ感染率の低下など様々な要因で近年わが国では上部消化管疾患は変遷してきており、消化性潰瘍や胃癌が占める割合は減少し、胃食道逆流症（gastroesophageal reflux disease : GERD）や機能性ディスぺプシア（functional dyspepsia : FD）が占める割合が増加してきている。

1. 機能性ディスぺプシアの診断と治療

機能性ディスぺプシアは症状の原因となる器質的疾患がないにもかかわらず慢性的に上腹部症状を呈する疾患であり、その病態には多因子が関与しているとされている。治療は酸分泌抑制薬や消化管運動機能改善薬が中心となる。機能性消化管疾患診療ガイドラインについて解説し、FDの病態や治療について概説する。

2. 胃食道逆流症の診断と治療

胃食道逆流症は胃食道逆流（gastroesophageal reflux : GER）により引き起こされる食道粘膜傷害と煩わしい症状のいずれかまたは両者を引き起こす疾患である。上述したように近年わが国でも増加傾向という報告が多く、当院人間ドックでのGERDの有病率を検討したのでその結果についてご紹介したい。また、改訂されたGERD診療ガイドラインについて解説し、GERDの診断・治療について概説する。

3. PPI 抵抗性 GERD の背景因子

GERDに対する治療はプロトンポンプ阻害薬（PPI）が中心となるが、標準量のPPI治療に反応しないPPI抵抗性GERDを少なからず経験する。当院でPPI抵抗性GERDの頻度や背景因子について検討したのでその結果についてご紹介したい。

4. GERD と睡眠障害

PPI抵抗性GERDは多数の因子が関与していると考えられるが夜間逆流・睡眠障害はその一つである。GERD患者の半数以上が何らかの睡眠障害を有しており、特に非びらん性胃食道逆流症（NERD）患者に多い。夜間逆流は、胸やけ症状・覚醒や起こる時間帯により入眠困難、中途覚醒、早朝覚醒、熟眠障害をきたす。一方、睡眠障害が食道知覚過敏を介してGERD症状を悪化させることから、GERDと睡眠障害は相互関連があると考えられている。GERDと睡眠障害の関連、睡眠障害に対するPPIの治療効果について概説する。

5. PPI 抵抗性 GERD に対するボノプラザンの効果

2015年3月に保険承認された新しい酸分泌抑制薬であるボノプラザンは既存のPPIより胃酸分泌効果が高いとされている。GERD診療ガイドラインではPPI抵抗性GERDに対してPPI倍量投与や他剤との併用などが示されているが、ボノプラザンへ変更した場合の治療効果についての報告は多くない。当院でPPI抵抗性患者に対してPPIをボノプラザンに変更し症状改善度や夜間症状・睡眠障害の変化について検討したのでその結果をご紹介したい。

6. 専門医に紹介すべき GERD 患者

非びらん性GERDについては、機器や診断の進歩により病的な酸逆流と関連しない逆流過敏症や機能性胸やけとの鑑別が可能となり、疾患概念が変化しつつある。GERD診療ガイドラインで専門治療が必要とされているケースについて解説する。